

## 第 70 期第 2 回男女共同参画推進委員会議事録（案）

日時：2014 年 9 月 27 日(土) 13:00～16:20

場所：日本物理学会 大会議室 4F（湯島）

出席者：森 初果（委員長）、小形正男（副委員長）、小田原厚子、鹿野 豊、中山敦子、野尻美保子、山本文子、板倉明子（オブザーバー、14 時～。物材機構）

（事務局）白勢祐次郎、岡村裕子

欠席者：伊藤公平、永宮正治、笹尾真実子、ジョン・フラナガン、栗本 猛

### 議事

(1) 国際交流：IUPAP-WIP(International Union of Pure and Applied Physics-Women in Physics 2014)[2014 年 8 月 5 — 8 日, 場所：Wilfrid Laurier 大学 (Waterloo, Canada)] (資料 1-1) に関して森委員より報告があった。

- ・ 物理学会からの参加者は、江尻委員（招待発表：大規模アンケート解析—ワークライフバランス）、笹尾委員（ポスター発表：放射線教育）、森委員（ポスター発表：日本物理学会男女共同参画委員会の活動）であった。
- ・ 日本物理学会からは 20 万円を補助して、発展途上国からの参加者の補助を行った。
- ・ 会議自体は、それぞれのワークショップに分かれて議論と基調講演（6 名）が行われ、男女共同参画および若手中心の研究発表（3 分発表＋ポスター発表）が行われた。
- ・ 次回開催地は未定。
- ・ Skype を通じて、女子中高生夏の学校 2014 の国際交流を行った。

(2) 国際交流: Woman in Physics の報告(日米物理学会共催内 [2014 年 10 月 7～12 日 ハワイ島で開催予定]) (資料 1-2) 笹尾委員からの資料をもとに、小田原委員からの報告があった。

- ・ 共同議長である東大の大塚氏が開催提案を受け、それが男女共同参画委員会（森委員長、笹尾委員）に回り、現在、笹尾委員がアメリカと交渉している。
- ・ Woman in Physics の開催日時は他のセッションがない 8 日の 17 時～19 時で開催確定した。
- ・ アメリカの参加者は既に締め切ったが、参加者についての情報は把握できていない。日本側の参加者の原子核談話会＋核理懇の ML で告知済であるが、理研の肥山氏、小田原委員の参加は確定との報告があった。

(3) 女子中高生夏の学校 2014 報告 [日時：2014 年 8 月 6 — 8 日, 場所：国立女性教育会館] (資料 2-1) に関して、まずは、小田原委員より報告があった。

- ・ 日本物理学会からは「LED を光らせる」 長谷川修司氏（東京大学）の実験を担当し、参加者は2名だった。
  - ・ 伊藤委員の紹介で学生TA 2人が日本物理学会の支援により参加した。
- 続いて、ポスター・キャリア相談ブースに関して、山本委員より報告があった。
- ・ 物理学会からは、2件のポスター発表（原子核、熱電変換材料）および熱電変換材料の演示実験を行った。

そして、国際協力（資料 2-2）に関して中山委員より報告があった。

- ・ サイエンスカフェの後、森委員の協力のもとでカナダ IUPAP-WIP と skype を通じて国際交流を行った。
- ・ 今回から初めて、保護者と教員に関しても国際交流を行った。事前にアンケートを実施し、海外の状況を説明する会をもった。
- ・ 11ヶ国から女子留学生12名、留学研究者6名を集めて、グループに分かれて国際交流を行った。
- ・ 国立女性教育会館（ヌエック）が仲介して、女子中高生が今後、連絡したいという参加した先生方に対してメンター制度を創設したが、ガイドラインがはっきりしていないため、問題点があるのではないか？という問題点があるのではないかという現場に参加した委員から意見が寄せられた。
- ・ 次回の委員長は未定という報告があった。
- ・ 森委員より、今回のイベントをサポートしている JST 中高生理系選択支援プロジェクトは「裾野を広げる方針からトップを引き上げるという方針に変えようか？」という段階で現場としての意見を求めた。議論の結果、現場としては今後も裾野を広げる方針が良いのではないか？という結論になり、採択側からの意見を伝えることとなった。

最後に、事務局から会計報告（資料 2-3）がなされた。

- ・ 食事代は概ね1000円以内とする従来からの会計の運用方針の下で、会議費としての、食事代も含め、基本的には実費支給の案が出された。ただし、今回は学生アルバイト代は旅費と午前中の日当がヌエックから支給されたとのことであった。この案は了承された。

(4) 年次大会シンポジウム提案（資料 3）が鹿野委員、野尻委員よりなされた。

- ・ 次回の年次大会（早稲田大学）の「物理と社会」領域でのシンポジウムの提案である。
- ・ 基本的な案は、現在のキャリアに対する現状を知り、個々人がどのように今後のキャリアパスを考えていけるのか？という契機につなげたいという提案で、資料3のような案が提案された。

そして、以下のことが議論された。

- ・ 聴衆としてどのような方をターゲットとされているのか？という質問がなされ、博士課程の学生や1回目のPDあたりをターゲットとすべきではないかという意見が出た。

- ・ 放射線技師など（医学物理士）他分野との融合領域により物理学の拡がりアピールすべきではないかと意見が出た。
- ・ 海外で取得する学位と国内で取得する学位に関して差があり、それに考慮すべきではないかという意見が出た。
- ・ 大学教員側からすれば求人が増えたが、それを積極的に活用できていない若手研究者がいるという意見が出た。
- ・ スピーカーの候補に高校教員の方を入れるべきではないかという意見が出た。
- ・ スピーカーの候補として、素粒子理論出身でシンクタンクで活躍されている方を招聘すべきではないかという意見が出た。もし、それが実現するなら、バランスとしては、物性理論出身でメーカーなどの民間企業で活躍されている方を招聘すべきではないかと思うが、探すのが難しいのではないかという懸念が出た。
- ・ ノンアカデミックだけでは、ノンアカデミックを推奨しているように見られるので、バランスとしては現在アカデミックに残っている人もスピーカーに入れるべきではないかという意見が出された。
- ・ コンセプトとしてキャリアパスシンポジウムを開催するのは良いという合意があるが、男女共同参画の視点やアカデミックキャリアパスなどとの関連を強化した上で今後はシンポジウム担当委員を中心として、10月27日のシンポジウム提案締切日までにメール審議ということになった。

また、具体的な講演候補者リストとして、

- ・ 現状の研究者分析および将来に対する研究者像に関する話題提供を総合研究大学大学院大学の角南さんをお願いすることにした。
- ・ また、物理学会のキャリアパス事業としての話を栗本委員をお願いすることにした。
- ・ この他、博士研究員の青木圭子さん、JSTの荒岡さん、日経サイエンスの古田さんなど具体的なスピーカー候補は一度、全体像を見てから決定することになった。

(5) 学協会連絡会に関して小形委員より報告および審議がなされた。

- ・ 学協会連絡会シンポジウム[日時：2014年10月4日（土）、場所：東京大学駒場キャンパス]が開催され、伊藤委員、フラナガン委員、野尻委員、森委員、板倉氏が出席する予定。交通費、参加費が支給されるので、参加費の領収書（原本）を事務局の岡村職員まで送ってくださいとのこと。
- ・ （資料4,5）にあるように、過去の大規模アンケートに関してNISTEPの研究者からの要請により、大規模アンケートに関するガイドラインに関してWG（物理学会からはフラナガン委員が途中から参加）が立ち上がり、その案が提出され審議された。提出されたガイドライン案は法的には問題がないことが確認されているということが報告された。しかし、今回のケースだけみれば良いように思えるが、一個人からでも申請出来るレベルになっており、問題が多数あるのではないかという意見が出され、公

的機関長からの依頼に限るとというのが良いのではないかという意見が付則された。その旨、小形委員が学協会連絡会へ伝えることとなった。

- ・ (社) Diversity is the Game Changer に男女共同参画連絡会が入らないかと連絡があったが、男女共同参画連絡会がどこかの下部組織になることではないなどとの意見があり、現状では参加しない予定である。(資料 8)

(6) 男女共同参画推進委員会の広報に関して、森委員より報告があった。

男女共同参画推進委員会だよりに関しては、

- ① 江尻晶「第三回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査から見える日本物理学会会員のワークライフバランス」(資料 6) が 11 月頃に掲載予定である。
- ② 森初果、江尻晶、笹尾真美子「IUPAP-Women in Physics の参加報告」(資料 7) を原稿執筆した。
- ③ 湯浅富久子、鳥養映子、小田原厚子、中山敦子、山本文子により、女子中高生夏の学校について執筆依頼がなされ、関西科学塾とは出来れば切り離して執筆したいとの旨になった。

(7) 事務局より会議システムに関する報告があった。次回以降、遠方からの参加等で会議に出席することが難しい場合は、テレビ会議システム V Cube <http://jp.vcube.com/> にて参加可能になった。現在、試行錯誤中で色々と不都合があり変更をする予定があるとの連絡があり、会議は音声のみの予定で資料は PDF にて事前に配布する予定ということであった。

(8) 次回委員会日程は 3 月 (学会シンポジウムの内容検討、役割担当の引き継ぎ) と森委員より連絡があった。

<配布資料>

資料 1-1 : 第 5 回女性物理学国際会議参加報告

資料 1-2 : "Woman in Physics" meeting at the joint JPS/DNP meeting 開催について

資料 2-1 : 「女子中高生夏の学校 2014」実施報告  
<http://www.nwec.jp/jp/program/invite/2014/page02s.html>

資料 2-2 : 「女子中高生夏の学校 2014」国際交流 報告

資料 2-3 : 「女子中高生夏の学校 2014」スタッフ旅費等

資料 3 : 日本物理学会男女共同参画委員会シンポジウム企画案

資料 4 : 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査 回答個票の利用ガイドライン変更に関する趣意書

資料 5 : 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査 回答個票の利用ガイドライン (案)

資料 6 : 学会誌 (男女共同参画だより) 「第三回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査から見える日本物理学会会員のワークライフバランス」

資料 7 : 学会誌 (男女共同参画だより) 「IUPAP-Women in Physics の参加報告」

資料 8 : (社) Diversity is the Game Changer [http://diversity.or.jp/?page\\_id=261](http://diversity.or.jp/?page_id=261)